

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 山口県立西京高等学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	本校普通科 体育コース 35名 (男子20名 女子15名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	パラバドミントンを通してインクルーシブスポーツの素晴らしさを体験し、健常者と障害者の垣根を取り払い、共生社会の構築に向けた意識を高める。 スポーツドクターによるドーピングについて説明や、パラバドミントン元日本代表選手からのドーピング検査の実態についての講義を通して、正しいドーピングについての知識、理解を深める。
5 取組内容	(1) ドーピングの実際 講師：安藤 裕一 氏 (株式会社 GMSS ヒューマンラボ代表取締役/医師) ドーピングが人体に及ぼす影響について詳しく説明していただいた。筋肉増強剤や禁止薬物の紹介、副作用が及ぼす人体への影響、また、身近にあり、誤って飲んでしまいそうな禁止薬物の紹介など、ドーピングについての正しい知識と危険性について学ぶことができた。 パラバドミントン元日本代表選手からは、実際のドーピング検査の様子を教えていただくなど、体育コース生徒にとっては非常に興味深い内容であった。

	<p>(2) パラバドミントン体験学習 講師：パラバドミントン元日本代表 江上 陽子 氏 NPO 法人 スマイルクラブ 大浜 三平 氏 、大浜 あつ子 氏</p> <p>パラバドミントンについてのルールの説明やカテゴリーの違いについて講師の説明を受けた後、10台の競技用の車椅子に乗りパラバドミントンを体験した。ダブルスやシングルスを実際のルールで行い、パラバドミントンの楽しさや難しさを体感することができた。</p>
6 主な成果	<p>(1) 車椅子を操作してのスポーツは、初めて経験した生徒がほとんどであったが、運動に対する興味・関心の高い体育コースの生徒達であることから、事後アンケートには「機会があれば是非またやってみたい。」という声が多かった。</p> <p>(2) パラバドミントン選手の実際の競技力を体験することによって、どんな境遇や環境でも本気で取り組むことの尊さ、価値に気づくことができた。</p> <p>(3) ドーピングの危険性や、実際のドーピング検査についての話を伺うことができ、身近な薬にも禁止薬物が含まれていることがあるなど、改めてドーピングの危険性を知ることができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>パラバドミントン選手の動きを間近で体感することで、トップアスリートのレベルの高さを知ることができた。</p> <p>短い時間ではあるが、全員が競技用車椅子に試乗することができ、パラバドミントンの難しさを知ることができた。</p>
8 主な課題等	<p>(1) 運動部員が多く、身体を動かすことの好きな生徒が多い本校においては、体育コースに限らず、さらに多くの生徒に聴かせたい内容であった。今後は、授業の一貫としてだけでなく、全校行事として実施することも検討したい。</p> <p>(2) 今後も、持続可能な具体的取組について検討していく必要がある。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>パラバドミントン元日本代表選手を招き、実際の活動を通してインクルーシブスポーツの素晴らしさを改めて体感した。また同時にドーピングの危険性にも触れることができ、体育コースの生徒達にとっても興味深い話であった。</p> <p>来年度以降もこうしたパラスポーツを体験するなかで共生社会の構築に向けた意識を高めるとともに、スポーツを「する、みる、支える、知る」人材育成に努めていきたい。</p>